

(別紙1)

管理運営状況 評価シート【令和2年度】

(評価日 令和3年6月30日)

1 施設の概要

施設名	いわてリハビリテーションセンター
所在地	岩手郡雫石町七ツ森 16 番地 243
電話・FAX	電話 019-692-5800 FAX 019-692-5807
HP・電子メール	ホームページ http://www.irc.or.jp メールアドレス info@irc.or.jp
設置根拠	リハビリテーションセンター条例（平成5年7月13日条例第31号）
設置目的	（設置：平成5年10月1日） リハビリテーション医療並びにリハビリテーションに関する教育研修及び地域における活動の支援等を行うことにより、県民の保健医療の充実に寄与することを目的とする。
施設概要	土地面積 28,514.69 m ² 病院施設延べ面積 8,249.01 m ² 病床数 一般 100床（回復期病床 100床）
施設所管課	岩手県保健福祉部医療政策室 （電話 019-629-5415、メールアドレス AD0002@pref.iwate.jp ）

2 指定管理者

指定管理者名	公益財団法人いわてリハビリテーションセンター
指定期間	平成30年4月1日～令和5年3月31日（5年間）
連絡先	いわてリハビリテーションセンター 岩手郡雫石町七ツ森 16 番地 243 電話 019-692-5800 FAX 019-692-5807

3 指定管理者が行う業務等

業務内容（主なもの）	・リハビリテーションに関する教育研修及び地域における活動の支援等に関する業務 ・施設及び設備の維持管理に関する業務				
職員配置、管理体制	214人（常勤換算 189人） （令和3年4月1日現在）				
	（内訳）（単位：人）				
	区分	財団職員		県派遣	計
		正規	臨時等		
	医師	6	15	0	21
	看護師	50	6	0	56
	薬剤師	2	0	0	2
	検査技師	2	0	0	2
	放射線技師	1	3	0	4
	管理栄養士	3	0	0	3
	理学療法士	33	0	0	33
	作業療法士	28	0	0	28
	言語聴覚士	9	0	0	9
	臨床心理士	3	0	0	3
	医療社会事業士	7	1	0	8
	事務	15	11	1	27
歯科衛生士	1	0	0	1	
介護福祉士	11	0	0	11	
看護助手	0	6	0	6	
合計	171	42	1	214	

○組織図
別紙

○非常勤職員常勤換算

医師	1.8人
歯科医師	0.5人
診療放射線技師	0.1人
計	2.4人

常勤換算後の職員数

財団正規	171人
県派遣	1人
財団臨時	15人
非常勤	2人（常勤換算）
計	189人

利用料金	健康保険法等の規定により定められた診療報酬の算定方法等により算定した額のほか、リハビリセンター条例施行規則（平成5年9月28日規則第64号）に定める利用料金		
診療時間及び受付時間	診療時間 受付時間	9時から17時まで 8時30分から16時まで	休診日 <ul style="list-style-type: none"> ・日曜日及び土曜日（リハ部門を除く） ・国民の祝日 ・12月29日から翌年1月3日までの日

4 施設の利用状況

(医療事業実績)		前期間 平均	指定管理期間					備考
			30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	
延べ患者数	入院	29,456	29,447	29,105	30,489		29,680	
	外来	4,860	4,151	3,838	3,513		3,834	
1日平均患者数	入院	80.7	80.7	79.5	83.5		81.2	
	外来	20.0	17.0	16.0	14.5		15.8	
患者1人あたり 1日平均収益	入院	39,851	42,295	42,864	42,597		42,585	
	外来	11,914	11,880	11,865	13,628		12,458	
病床利用率(%)		80.7	80.7	79.5	83.5		81.2	
平均在院日数(日)		86.5	88.4	70.5	88.4		82.4	

5 収支の状況

(単位：千円)

区 分		前期間 平均	指定管理期間					備考
			30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	
経 常 収 益	1 医業収益	1,265,071	1,330,679	1,331,397	1,387,005		1,349,694	
	入院診療収益	1,173,856	1,245,461	1,247,543	1,298,738		1,263,914	
	外来診療収益	57,611	49,313	45,538	47,879		47,577	
	その他医業収益	33,604	35,905	38,315	40,388		38,203	
	2 医業外収益	161,675	158,336	159,006	181,446		166,263	
	県からの指定管理料	135,898	131,559	132,955	171,104		145,206	
	受託事業収益	17,455	18,556	17,410	34,026		23,331	
	その他の医業外収益	8,322	8,221	8,641	10,341		9,068	
	3 基本財産運用益	-	445	446	427		439	
	4 特別利益	0	0	0	0		0	
合 計		1,426,746	1,489,460	1,490,849	1,568,878		1,516,396	
経 常 費 用	1 医業費用	1,393,729	1,442,707	1,518,208	1,621,373		1,527,429	
	給与費	1,008,215	1,035,308	102,322	1,167,694		768,441	
	材料費	83,784	72,359	77,486	85,908		52,781	
	経 費	286,670	311,615	333,148	361,698		335,487	
	その他医業費用	215,060	16,105	14,480	5,931		12,172	
	2 医業外費用	28,947	7,320	175	142		2,546	
	地域支援事業費 (うち職員給与費)	25,529	0	0	0		0	
	教育研修事業費	532	0	0	0		0	
	研究開発事業費	1,309	0	0	0		0	
	その他医業外費用 (不用品原価、雑損失等)	1,578	7,320	175	142		2,546	
3 特別損失	0	0	0	0		0		
4 管理費	-	7,457	8,064	8,435		7,985		
合 計		1,422,999	1,450,164	1,526,273	1,629,807		1,535,415	
経常収支		15,372	39,295	▲35,424	▲60,929		▲19,019	
経常外収支		-	▲11,893	▲330	18,911		▲2,229	
収 支		-	27,402	▲35,754	▲42,018		▲16,790	
前年度繰越金		494,977	401,325	428,727	392,974		407,675	
翌年度繰越金		498,727	428,727	392,974	350,956		390,886	

6 利用者の意見等への対応状況

(1) 利用者意見（満足度等）の把握方法

把握方法	<ul style="list-style-type: none"> ・医療相談窓口対応責任者の指定、投書箱の設置、栄養科における随時嗜好調査の実施によるニーズ等の定期的な把握 ・患者満足度調査等の実施 ・連携機関訪問による聞き取り ・ホームページ上からの問い合わせ 等 	実施 主体	いわてリハビリテーションセンター
------	---	----------	------------------

(2) 利用者からの苦情・要望

受付件数	苦情 5 件、指摘・要望等 7 件、感謝の内容 11 件		
主な苦情、要望等	対応状況		
<p>①【苦情】（食事）</p> <p>ある日の昼食に鶏肉禁なのに鶏肉料理が出た。毒を出された気分だ。選択メニューのせいなのか？それとも金銭で家族に迷惑を掛けている身としては、たかが100円といえども出費だ。もっとも始めから注文を聞かれた覚えもない。貧しい者は食べるなか？見えるから余計面白くない。選択メニューは止めて平等にバリエーションを変えて出してほしい。中華そばにはしな竹、うどんやそばには野菜天、ナポリタン、ハンバーグ etc、食べたいけれどきりがない。ストレスを無くしてくれ！！</p>	<p>禁止食品のある方のお膳は他の方のお膳と離し、お膳に食事を入れる際も声をかけながら、間違いがないかを確認し提供していたが、副菜に鶏肉が入った炒り煮を提供してしまった。</p> <p>禁止食品については、新たにチェック表を作成し、代替食品についても管理栄養士が指示するなど、確認を徹底する。</p> <p>また、特別（選択）メニューについては、食事に対するニーズの高まりから、診療報酬の食事療養費とは別に設けられたもので、当センターも、平成18年度から選択メニュー（20円/1食）、平成29年度から特別メニュー（100円/1食）を設け、食事メニューの選択の幅を増やしてきた。</p> <p>入院時に管理栄養士が希望を確認していたが、入院生活に慣れてきた頃に、もう一度、特別（選択）メニューについて説明し、希望を確認するという配慮が不足していたと思う。</p>		
<p>②【要望】（施設）</p> <p>入浴が少なく大変なので、もっと入浴回数を増やしてください。</p>	<p>入浴は、患者の体調や身体機能の評価を踏まえ、医師の指示で「介助による機械入浴」「リフターによる特殊入浴」「一般入浴」の3パターンとしている。</p> <p>通常、入浴回数は週2回としているが、「一般入浴」の中で動作が自立している患者は週3回まで可としている。</p> <p>「介助による機械入浴」と「リフターによる特殊入浴」は、設備や人員に限りがあり回数を増やせないが、「一般入浴」の週3回の完全実施について、検討を重ねている。</p> <p>また、入浴できない日は、清拭タオルを提供している。</p>		
<p>③【要望】（施設）</p> <p>通院5年目に入りました。感謝しております。お客様用の駐車場の入口部（S字道路）の改善を提案します。現状車のサイズも大きくなってきているため、慣れたドライバーも不便を感じております。S字部の出口2mを削り取った方が良いと思います。（木は2本切る）</p>	<p>改善（改良）について、設置者であり施設の所有者である岩手県に報告し要望した旨、回答した。</p> <p>県所有の立木や縁石等の財産処分、埋設管等の調査、工事許認可、財源など、検討を要する事項が多岐に亘るため、暫くの間、現状でのご利用をお願いした。</p>		

<p>④【要望】(サービス)</p> <p>洗濯機の無料使用について入院した際、弟は洗濯機を使用したくとも「常に」、「常に」使用中で、3ヵ月間一度もつかうことができませんでした。</p> <p>ランドリーサービスを使用しましたが業者の衣服の取扱いは衣類にダメージを与えた感があります。クリーニング業者としては何でも全部洗濯・乾燥するしかないのでしょうか、色物や素材等最小限の区分をしていただけると大変助かります。</p> <p>また「無料使用」だからと、歩行可能な方、自由時間が多くある方など、洗濯機にアクセスしやすい患者が頻繁に使用されているのであれば、他の患者に大変不公平だと思います。</p> <p>コロナ禍、家族は遠隔に住んでいる等、どの入院患者も同じ試練を抱えています。患者ごと、あるいは病室毎に使用日、時間を決めてはどうでしょうか。もしくは、コインランドリーのように、有料にすれば、悪用する人がいないと思います。ご検討ください。</p> <p>⑤【要望】(サービス)</p> <p>入院数の割に洗濯機の数がありません。1台増やしてほしいです。</p>	<p>ランドリーサービスの色物や素材等の区分については、クリーニング業者に伝え、業者から対応を説明していただいた。</p> <p>また、洗濯機は、入院患者の要望に応え、各病棟に2台の無料洗濯機を設置しているが、11月16日(月)から事前予約制とした。</p> <p>これまでも洗濯機の利用に係る要望が寄せられていることから、洗濯機を増設できるよう、設置者であり施設の所有者である岩手県に改善(改良工事)を要望した結果、県が実施する大規模改修工事に含まれた旨をお知らせした。</p>
<p>(その他利用者からの積極的な評価等)</p> <p>苦情・要望等は、食事や建物・設備への内容が多く、でき得る限り対応を行った。一方で、接遇に関する苦情等は、ほぼなくなった。</p> <p>また、感謝や労いの投書も多く、これらは全職員に公開し、モチベーションの向上に利用した。</p>	

7 業務点検・評価 (※)

(1) 業務の履行状況

項目	事業計画、県が求める水準	実績 (指定管理者の自己評価)	評価指標
運営業務	<ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーション医療 ・地域における活動支援 ・教育研修事業 ・調査研究事業 	<p>医療事業については、紹介患者数は連携強化の取り組みにより前年度実績を上回ったが、在院日数の短縮により入院患者延数が目標を下回り、入院収益が思うように伸びなかった。</p> <p>また、感染対策に使用する衛生材料や消毒薬の緊急確保による経費の増加、老朽化による営繕費用の増加等により、マイナス収支となった。</p> <p>地域支援、教育研修、調査研究等の公益事業については、人の交流が制限される中で、内容の変更や規模の縮小等はやむを得なかったが、感染対策を強化しての実施やWEB研修への切替等により、概ね計画に沿って取り組むことができた。</p>	B
施設の利用状況	<ul style="list-style-type: none"> ・365日リハの実施 ・病床利用率 87.0% 	<ul style="list-style-type: none"> ・365日リハの実施 ・病床利用率 83.5% 	B

事業の実施状況	・管理計画書に基づく事業の実施	・「管理運営の体制」、「管理運営の実施」及び「管理運営に要する経費」の各項目に関して、管理運営計画書に基づき実施	B
施設の維持管理状況	・法令等による検査等 ・安全・保安上の点検業務等 ・施設修繕の実施	・法令等に義務付けられている検査等に関し、業者に委託し実施 ・安全・保安上の点検業務の実施(12項目) ・床暖房修繕、公舎修繕、空調の修理等 ・自動水栓への切替え、更衣室の設置等(新型コロナウイルス感染予防対応)	B
記録等の整理・保管	・法令等の規定に従い、各部門における記録の整理・保管	・各部門にて年度毎に編綴、保管 ・診療録は永年保管中	B
自主事業、提案内容の実施状況	・公益事業の充実 ・広報計画	・公益事業の充実 シルバリーリハビリ体操指導者養成の継続実施、岩手医大リハ科との教育連携、共同研究 コロナ禍により参加人数の制限や規模縮小、WEB開催への変更等が生じた。 ・広報計画 計画のとおり、機関紙(情報誌「ななつもり」)の発行(4回/年)、ホームページの随時更新、(令和2年10月24日)いわてリハビリテーションフォーラム2020を開催(240名の来場)。 ホームページは、全面的に見直し刷新し、モバイル端末からの利用にも対応した。	B
(施設所管課評価) ・成果のあった点 紹介患者数が増えたことにより入院収益が増額したこと。通所リハビリの利用回数を週2回から3回に増加したことにより、介護保険事業収益が増額したこと。 ・改善を要する点 新型コロナウイルス感染症対策のため面会謝絶としたより、在院日数が短縮した。患者の社会復帰を見据え十分なリハビリを提供できるように取り組むこと。 また、適正なベットコントロールを行い、病床利用率の向上に努めること。			B

(2) 運営体制等

項目	事業計画、県が求める水準	実績(指定管理者の自己評価)	評価指標
職員の配置体制	・法令等の規定に従い、各部門における適正な職員の配置	法定人員数を満たしているが、医師、療法士、看護師、看護補助者の職種においては、働き方の見直しを考慮するともう少し職員確保が必要と思われる。	B
苦情、要望対応体制	・医療相談窓口の設置 ・管理運営への反映	医療窓口相談及び投書箱の設置により把握し、都度、関連部署にて改善策を検討し実施することで、質の向上に努めている。	B

危機管理体制（事故、緊急時の対応）	<ul style="list-style-type: none"> ・職員非常招集連絡システムの整備 ・防災訓練の実施 	<p>11月に総合避難訓練を実施。その後、新採用職員を中心に避難器具、消火設備の使用訓練を実施。</p> <p>2月に各種消防設備の場所、及び取扱い方法について確認したのち、ポータブル発電機の使用の実技訓練、非常事態放送（ホットラインコール及びVコール）の違いの認識と対応訓練を実施。</p>	B
コンプライアンスの取組み、個人情報の取扱い	<ul style="list-style-type: none"> ・法令順守の取組み ・個人情報の保管及び取扱い ・職員等への指導 	<p>各種規程の整備・運用により法令順守に取り組んでいる。特に、新採用者にはオリエンテーションを行い、周知の徹底を図っている。</p> <p>また、個人情報の取り扱いについては、全職員を対象とした研修会を開催し、継続的に取り扱いの注意・指導を行っている。</p>	B
県、関係機関等との連携体制	<ul style="list-style-type: none"> ・円滑な連携のとれる体制 	<ul style="list-style-type: none"> ・県央保健所の働きかけにより、管内の医療機関・施設の医療連携担当を一覧化 ・盛岡、奥州、気仙医療圏連携バス会議等へ積極的に参加(延べ11回) ・4つの医療機関を訪問し、連携体制について意見交換等を行った。 (県立久慈、宮古、釜石、大船渡病院) 	A
<p>(施設所管課評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成果のあった点 医師1名の増員をはじめ、医療従事者の確保に努めたことにより、受け入れ可能な患者数の上限を引き上げられたこと。 医療機関との連携により、紹介患者が増加したこと。 ・改善を要する点 引き続き働き方勤務環境を考慮した医療従事者の確保に努めること。 			B

(3) サービスの質

項目	事業計画、県が求める水準	実績（指定管理者の自己評価）	評価指標
運営業務	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画による研修・訓練の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・患者、家族等への指導・研修 開催回数12回、参加者数延73人 ※コロナ禍による面会制限のため入院患者のみを対象とした。 ・学生臨床指導 延15校、対象学生実121人(延633人) ※コロナ禍による校外活動の自粛等により、キャンセルや期間短縮が多数あった。 	B
利用者サービス	<ul style="list-style-type: none"> ・職員研修計画 医療及びリハビリ等の専門研修並びに医療安全管理研修等を年12回程度実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・全9回実施。(うち、リハ医療等専門研修1回、医療安全管理研修6回、その他業務関連2回実施。) ・院内研究発表会1回実施(4件) コロナ感染予防のため、参加人数の制限やビデオ視聴の形式により実施。 	B

利用者アンケート等	・利用者アンケート実施計画	平成 30 年 3 月に実施した患者満足度調査の分析結果を基に各部門において協議・検討を行い、患者サービスの向上・改善に取り組んだ。	B
(施設所管課評価) ・成果のあった点 職員に個人情報の取扱いをテーマとした研修を行っており、情報漏洩を防止できたこと。 ・改善を要する点 職員満足度調査を定期的に実施し、組織全体で職場環境等の改善を行うこと。			B

(4) サービス提供の安定性、継続性

項目	事業計画、県が求める水準	実績（指定管理者の自己評価）	評価指標
事業収支	・安定的経営の確保	(前記「5 収支の状況」のとおり)	B
指定管理者の経営状況	・安定的な経営の確保 (管理計画書に基づく適切な管理運営)	<p>収入の大部分を占める入院収益は、管理計画と比べ、延べ入院患者数が 1,266 人の減少、入院単価も 244 円の減少となったことから、61,677 千円の減収となった。</p> <p>連携機関との意見交換等による関係強化を続け、入院決定のプロセスを集約し早期回答に努めたこと、民間救急搬送サービスを利用した入院患者の迎え入れなどの取り組みにより、紹介患者数は計画を大幅に上回ったものの、在院日数の短縮により、延べ入院患者数が計画を下回った。</p> <p>また、外来収益は、延べ患者数は 132 人の減少となったが、単価が 1,555 円増加し、3,866 千円の増収となった。</p> <p>その他の収益では、新型コロナウイルス感染対策や勤務環境改善等の助成金・補助金等を積極的に利用し、18,213 千円の財源を確保した。</p> <p>これらから、総収益は計画を 33,160 千円ほどの減収となった。</p> <p>一方、費用では、診療報酬の施設基準等に応じた人員配置、建物・設備の経年劣化に伴う、営繕費の増加、老朽化の感染予防対策の強化のための備品・器材購入、衛生材料の緊急調達等により、計画を 28,589 千円の超過となった。</p> <p>結果、経常収支は 62,000 千円ほどのマイナス収支となった。</p>	B

<p>(施設所管課評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成果のあった点 新型コロナウイルス感染症対策のため経費が増加しているが、入院収益などの経営収益は増加しており、概ね適切に管理運営を行っていること。 ・改善を要する点 適正な病床利用率を確保し、経営の安定化を図ること。 	B
---	---

※ (注1) 県記載欄：「事業計画・県が求める水準」、「評価指標」「施設所管課評価」

指定管理者記載欄：「実績（自己評価）」

(注2) 評価指標

- A：協定書、提案書等の内容について高レベルで実施され、また、計画を上回る実績（効果）があり、優れた管理がなされている。
- B：概ね協定書、提案書等の内容どおり実施され、計画どおりの実績（効果）があり、適切な管理が行われている。
- C：一部、改善・工夫を要する事項が見られたが、改善済み、または改善される見込みである。
- D：協定書等の内容に対し、不適切な事項が認められ、改善を要する。

8 指定開始年度から評価年度までの総合評価

(1) 指定管理者の自己評価

<p>① 成果があった取組み、積極的に取り組んだ事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年度に引き続き、連携医療機関を訪問しての意見交換、民間救急搬送事業者等を活用した入院時のお迎えサービス、紹介から入院までの待機時間の一層の短縮等による患者確保の取組みを継続した結果、前年度を上回る紹介患者をいただいた。 ・ 地域支援事業等においては、新型コロナウイルス感染症対策として、人の交流の制限や三密の回避が求められる中で、シルバーリハビリ体操指導者養成事業をはじめ、規模の縮小やWEB開催への変更等があったものの、ほぼ計画どおりに実施できた。 ・ 当センターの退院患者に対して、訪問リハ・訪問看護の提供に加え、介護保険による通所リハの提供を引き続き行い、医療と介護の連携による円滑な在宅復帰に取り組んだ。 <p>② 現在、苦慮している事項、今後、改善・工夫したい事項、積極的に取り組みたい事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 収益を確保するためには、安定した入院患者数の確保が必須であるが、県内における回復期リハ病棟の増床が背景にあることから、紹介先として選ばれる様、引き続き、定期的な訪問等により診療実績のPRや意見交換による連携関係の構築や、入院照会の回答に要する時間の短縮、入院患者の迎え等による早期受け入れ態勢を強化する等、積極的な患者確保が必要である。 ・ 働き手不足、都市部への偏在等により療法士や看護師の確保が困難となってくることが予測されるが、地理的な不利や、他施設との給与格差（特に若年層）については、根本的な解決は困難であるが、勤務時間の弾力的運用や時間制雇用制度等の導入により働きやすい環境の整備に取り組む必要がある。 ・ 費用の約7割を占める給与費の抑制が経営改善の課題であり、経常利益を確保するためにはこれ以上の伸びを抑える必要がある。 ・ ここ数年の職員の増員や退職補填により、新人または経験の浅い職員が増えたため、これらの職員に対する知識、技術等の研修体制のあり方、今後の担い手としての人材育成について計画的な取り組みが必要である。 ・ 指定管理者及び県出資法人として、健全経営が求められる一方、公益法人としては収支相償が原則とされ、黒字決算が制限されている。外部要因により収支が大きく変化する経営環境の中で、安定した経営基盤の確立に苦慮している。特に、当センターは職員の平均年齢が約37歳と若く、将来的な人件費増加が経営を圧迫することが懸念され、経費負担増への対策が急務であるが、相反する基準により動きが縛られている。

③ 県に対する要望、意見等

- ・ 岩手県におけるリハビリテーションの中核施設としての位置付けから、県行政の執行機動的役割として、県保健福祉部各課から事業支援の依頼や委託契約がある。県所管課でも、これらの業務を一元管理できる仕組みづくりをお願いしたい。
- ・ 大規模改修について、建物、付帯施設、設備等の全体的な老朽化が進んでいることから、予防的見地も踏まえ、実施時期や範囲を検討いただきたい。
- ・ 医療機器の整備にあたっては、岩手県のリハビリテーション医療中核施設として、高度で先進的なリハビリテーション医療の提供を掲げていることから、既存機器の更新のみにとらわれず、最先端の治療・検査・訓練等に要する機器の整備にも積極的に取り組んでいただきたい。
- ・ 当センターの業務、行事等の企画、立案、準備等を円滑に進めるため、県の予算要求、議会対応等の年間スケジュール等について、可能な範囲で年度当初や必要に応じ随時、情報提供いただきたい。

(2) 県による評価等

① 指定管理者の運営状況について

管理計画に基づき、多くの項目で適正に実施されている。

改善の必要性が認められる医師、療法士等の確保については、医療従事者が全県的に不足しているという困難な状況ではあるが、本県のリハビリテーション医療の中核施設として求められる医療を提供し続けるため、今後も引き続き取り組まなければならない課題であるといえる。

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受け赤字となった。今後、安定的な経営を継続するため、長期的な視点で経営基盤の確保に努める必要がある。

② 県の対応状況について（自己評価）

施設の管理運営に関し、指定管理者との意思疎通を十分に図るようにしている。

医療機器や施設設備等の更新に係る今後の方針については、指定管理者と連携し検討しているもの。

今後は施設の老朽化に伴う大規模修繕の計画について、指定管理者と連携し作成していくこととしている。

③ 次期指定管理者選定時における検討課題等

県内リハビリテーション医療の中核施設として、また岩手県リハビリテーション支援センターとして、県民の保健医療の充実に寄与すべく、様々な観点から検討を加えていく必要がある。

9 改善状況等

改善を要すると評価された項目（C、D評価の項目について）

改善状況

（指定管理者から県への報告年月日： 年 月 日）

改善状況の確認

（再評価年月日 年 月 日）